

○課題文について

課題文は、『体育がきらい』（坂本拓弥著 2023年 筑摩書房）を一部改変して用いた。

- 設問1 傍線部アで、筆者は、「ア私たちが自分の意志で階段かエレベーターかという選択をする前提に、私たち自身のからだが存在している」と述べていますが、それはどういことですか。課題文に即して、二〇〇字以内で説明しなさい。

【出題意図と評価のポイント】

課題文全体を正確に読み取り、それに基づいて文章を構成する力が備わっているかを見る設問である。「（選択の前提に）私たち自身のからだが存在している」という傍線部の意味を本文中の言葉から捉えて、精度の高い文章で記述したものを高く評価した。

【講評】

解答は概ね出題意図を踏まえたものであったが、傍線部が意味する「からだの在り方によって、思考や判断に大きな影響を受けている」ということに触れずに、階段かエスカレーターかの選択について説明をしている解答や、本文中の文言を羅列するに留まり文章構成力に欠ける解答が散見された。

- 設問2 傍線部イで、筆者は「イ私たちのからだが変わると、私たちの経験する世界も変わる」と述べていますが、あなたはこれについて、どう考えますか。課題文を踏まえながら、あなたの考えを、自分の体験や見聞を交えて八〇〇字以内で述べなさい。

【出題意図と評価のポイント】

筆者の主張を踏まえて、適切な事例を挙げて、論旨の通った文章で記述しているかを問う設問である。「私たちのからだが変わると、私たちの経験する世界も変わる」という内容にふさわしい体験や見聞を事例としながら、論理的な文章構成で考えを述べたものを高く評価した。

【講評】

自分の体験や見聞を根拠としながら「私たちのからだが変わる」例について述べた解答が多く見られたが、出題ポイントである「からだが変わる」ということが一つの身体技法の獲得であるということを読み取り、そこから「経験する世界も変わる」ということについて具体的に述べられた文章は少なかった。